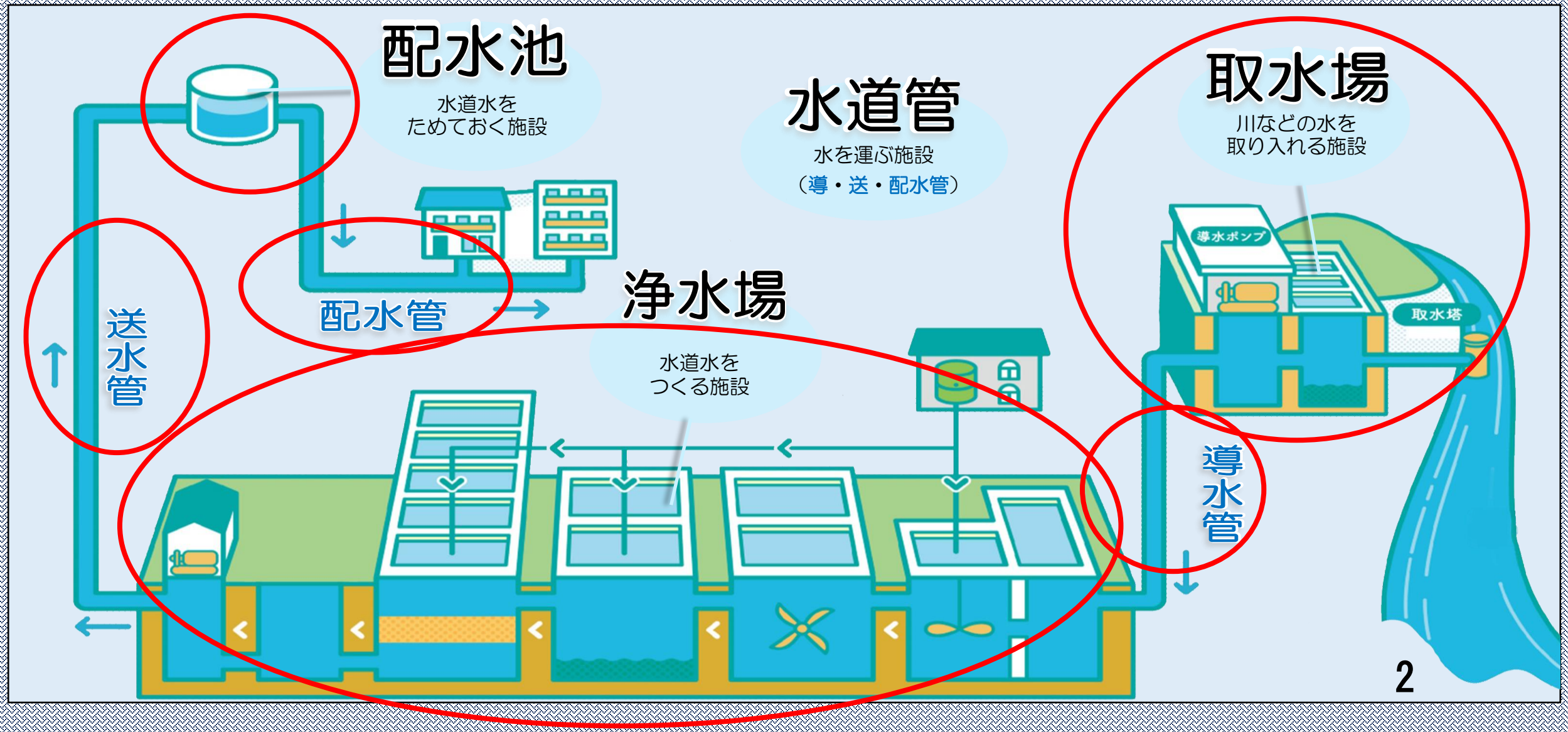
水道施設の概要 と課題

石巻地方広域水道企業団

令和4年2月28日 第142回経営審議会 資料

主な水道施設の概要


配水池
水道水を
ためておく施設
水道管
水を運ぶ施設
（導・送・配水管）
取水場
川などの水を
取り入れる施設
導水ポンプ
取水塔
配水管
送水管
浄水場
水道水を
つくる施設
導水管

給水区域と主な水道施設

取水施設

川などの水を取り入れ、浄水場に送るための施設で、取水場といいます。

（管理施設数：３）

取水塔　（鹿又取水場）

導水ポンプ（須江山系）

浄水施設

原水を沈澱・ろ過・消毒などの処理行い
水道水をつくる施設で、浄水場といいます。
（管理施設数：１７）

沈澱池（須江山浄水場）

ろ過池（大街道浄水場）

送水・配水施設

浄水場から水道水を送水ポンプで配水池まで送り，
配水場から各家庭等へ供給されます。

（管理施設数：１３９）

送水ポンプ（須江山浄水場・湊系）

配水池（前山配水場）

高度経済成長期に整備された施設

山崎配水場
【昭和４４年築造】

八幡山配水場
【昭和４６年築造】

更新事業の必要性

施設や管路

高度成長期の整備が多数

老朽化

計画的な更新や維持管理

自然災害

耐震化

安定的に供給できる施設

施設の耐震化

企業団の１５９の施設のうち、浄水施設である浄水場の耐震化率は、被災した蛇田浄水場を須江山浄水場へ移転する復旧事業の完了により７０％を超えました。

送水施設であるポンプ場については，近年の自然災害多発の状況を考慮すると十分とは言えない状況です。

配水施設については，耐震化率７０％に達しているものの，災害時に給水車への注水ポイントとなることから，国の補助を受けながら，更に耐震化を図っていく予定です。

施設区分		全国平均 厚労省R1	企業団
浄水施設	施設区分の全能力に対する耐震化されている能力の割合	32.6%	73.7%
ポンプ場	同上	48.4%	34.8%
配水池（配水施設）	同上	58.6%	70.0%

管理する管路の長さ

導水管　　約　３４ｋｍ

送水管　　約１６７ｋｍ

配水管　約１，６３７ｋｍ

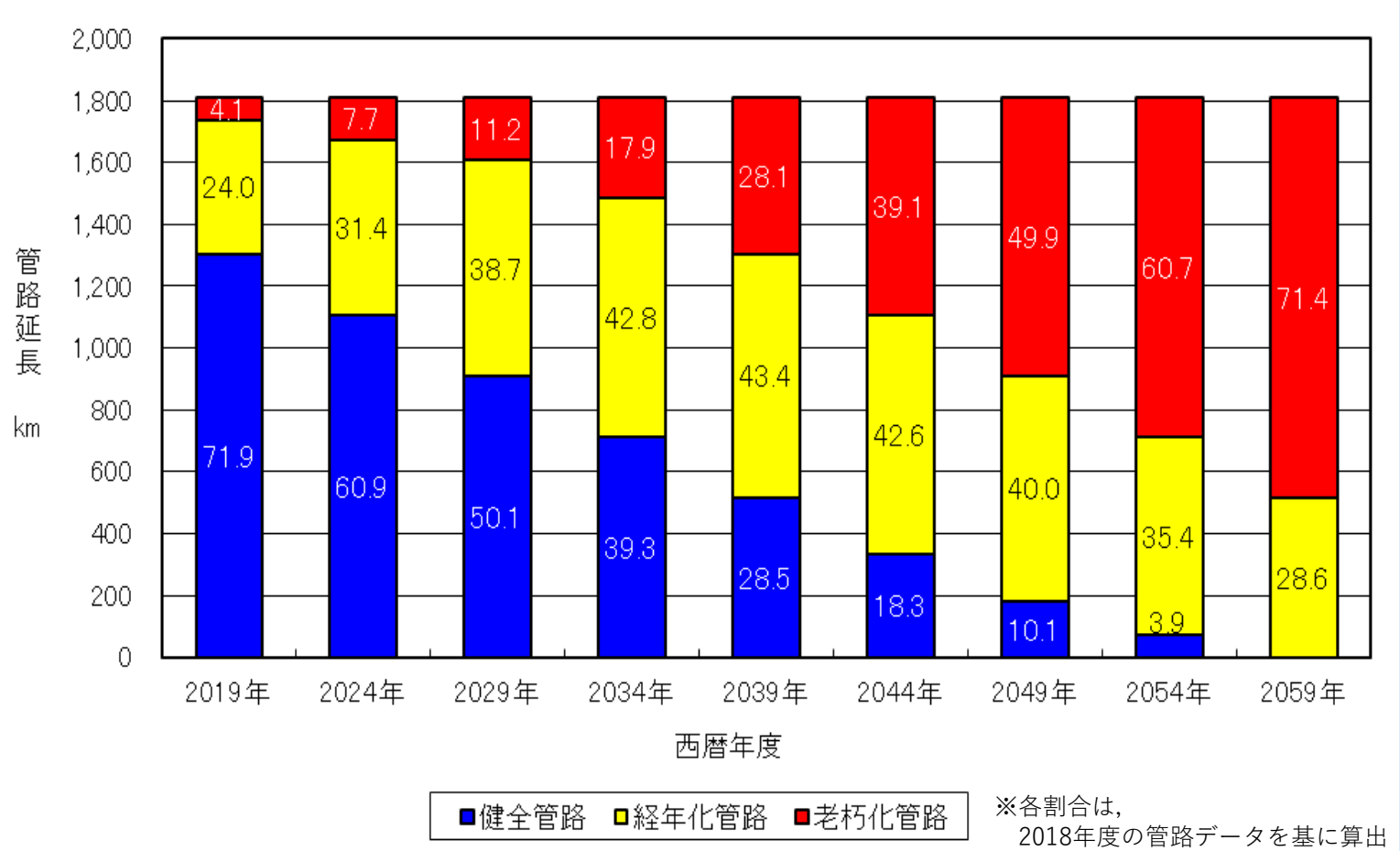
　石巻市と東松島市には、導水管・送水管・配水管合わせて約１，８００ｋｍの水道管が埋設されています。これは我々の給水区域から車で鹿児島県まで行くよりも長い距離に相当します。

老朽管路が破損した様子

古くなった水道管から
漏水している様子

水道管が壊れて水が
噴き出ている様子

管路の健全度



※各割合は，
2018年度の管路データを基に算出

健全資産
法定耐用年数未満の資産

経年化資産
法定耐用年数の1.0～1.5倍の資産

老朽化資産
法定耐用年数の1.5倍超の資産

管路の健全度（更新しない場合）

管路の耐震化

総管路延長	１，８３８ｋｍ
耐震管延長	４６５ｋｍ
耐震化率	２５．３％

口径４００mm以上の基幹管路の耐震化率についても
全国平均の４０．９％に対し２８．６％と低いため，
十分とは言えない状況です。

ご清聴ありがとうございました。